

子どもの音楽的感性を高める指導を目指して

—保育士・幼稚園教諭採用試験のピアノ実技を基に—

辻 浩美・田中 麻衣・鹿戸 一範

Teaching Methods to Effectively Improve Children's Musical Sensitivity

— Based on a Study of Piano Practical Skills Examinations to Recruit Kindergarten
or Nursery School Teachers —

TSUJI Hiromi, TANAKA Mai, SHIKATO Kazunori

キーワード：表現力、幼児、音楽指導

はじめに

現在、保育現場では待機児童の増加とともに、保育士不足が問題視されている。実際、平成 28 年 11 月時点での有効求人倍率は全国平均で 2.34 倍、最も深刻な東京都では 5.68 倍に達している。こうした状況の中、保育士・幼稚園教諭採用試験においても、受験者の苦手意識が比較的強いとされているピアノ実技の内容に対して、顕著な変化が見られるようになってきた。ピアノ実技試験の現状を把握することは、保育者養成機関のピアノ指導を担当する教員にとって、必要不可欠と言えよう。

I. 研究の背景と目的

本研究の目的は、現在の保育士・幼稚園教諭採用試験で実施されるピアノ実技試験の内容を調査・分析し、その結果から、保育者養成校の学生たちが保育現場で、豊かな音楽表現に繋げられるよう指導することである。

2006 年 10 月に「幼保一元化」が求められ、認定こども園制度がスタートした。ピアノ未経験の学生が多く養成校へ入学し、学生の音楽的レベルの差異が生じたことなど、教員サイドでも授業

内容や指導方法に対して根本的な改革が急務とされる。保育者養成校における就職試験に関する先行研究として東・白川（2007）があるが、その調査から既に 10 年以上が経過し、現在の状況と比較する意味でも、再検証には適当な時期と考えられる。

昨年、筆者 3 人が共同研究した「ピアノ初学者のための使用テキストの実態と動向」（辻・鹿戸・田中（2017））では、保育者養成校において 3 つのテキスト採択パターン—ピアノ教則本と弾き歌い用テキストの併用使用型、ピアノ教則本のみ、弾き歌い用テキストのみ—に分類されることを明らかにした。その際、ピアノ教則本には依然として約 6 割がバイエル系のテキストを使用しているという結果を得た。保育士・幼稚園教諭採用試験の調査結果と使用テキストとの関連性についても検証し、豊かな音楽表現に繋げる効率的なテキスト使用方法を考案する。

II. 調査方法

1. 調査対象園の設定

2017 年度採用を対象とした、保育士・幼稚園教諭採用試験の音楽実技の内容について、埼玉県内にある 2 つの大学キャリアセンターにおいて、求人票、学生による就職試験報告書、内定報告書の調査を行う。調査期間は 2016 年 4 月から 2017 年 3 月までとし、私立幼稚園 388 園、認定こども

園 91 園、保育所 1200 園を調査対象に置き、都道府県単位で比較した。また、認定こども園は保育園型と幼稚園型があるが、幼稚園教諭免許状と保育士資格を取得、或いは取得見込が条件であったため、幼稚園教諭と保育士の区別なく調査した。

2. 手順と方法

調査は私立幼稚園（以下、幼稚園と略記）、認定こども園、保育所の3つのカテゴリーに分けて、以下の手順で調査する。

- (1) 音楽実技試験の有無
- (2) 音楽実技試験に課される曲数により分類し、その内容をパターン化する
 - ①ピアノ曲か弾き歌い曲か、また課題曲があるか自由曲か
 - ②初見演奏の内容は、視唱、視奏、視奏唱の何れか
 - ③その他、伴奏付けや歌唱などを課しているか

るか

尚、ここでいう採用園数とは、園から依頼のあった求人票と学生による就職試験報告書やアンケート調査によって、求人が明らかになった園数を意味する。

Ⅲ. 調査結果と分析

1. 幼稚園

(1) 音楽実技の有無

2017 年度幼稚園教諭採用は全国 388 園より求人があった。調査対象が埼玉県内の短大のため、埼玉が過半数の 201 園を占め、以下、東京 135 園、神奈川 17 園、千葉 9 園である。

採用園 388 園のうち、採用試験に音楽実技を含む園は 310 園あった。約 8 割の園が音楽実技を課し、91.9%の東京を皮切りに、埼玉 76.6%、千葉 68.4%、神奈川 52.9%と続く〔表 1〕。

〔表 1〕 2017 年度幼稚園教諭採用園と実技実施園の割合

	埼玉	東京	千葉	神奈川	茨城	栃木	福島	その他	計
A 採用園 (数)	201	135	19	17	6	2	1	7	388
B 実技実施 (数)	154	124	13	9	4	1	0	5	310
B / A (%)	76.6	91.9	68.4	52.9	66.7	50.0	0.0	71.4	79.9

(2) 音楽実技の試験曲数による内容分析と傾向 《1 曲型》 221 園

実技試験に 1 曲を課す園は 221 園あり、その 95% に当たる 200 園は弾き歌いが課された。その内、192 園は自由曲で、学生が自分の力に合った曲選びが出来るが、同時に保育の現場に合わせた適切な曲を選択する能力も求められる。一方、

ピアノ曲に課題曲が明記されている場合は「バイエル教則本」のみであった〔表 2〕。

表中の左側数字 (1, 2, 3...) は、試験内容のパターンを示し、文中で使用する際は P 1、P 2 と表記する。また、スラッシュ記号「/」は「或いは」を表し、自由曲は (自)、課題曲は (課) と略記する。

〔表 2〕 2017 年度幼稚園教諭採用園の音楽実技：1 曲型

		埼玉	東京	千葉	神奈川	福岡	栃木	秋田	山形	計
1	弾き歌い (自)	86	93	7	2	2	1	1	0	192
2	弾き歌い (課)	7	1	0	0	0	0	0	0	8
3	ピアノ (自)	0	1	0	0	0	0	0	0	1
4	ピアノ (課)	6	0	0	0	0	0	0	0	6
5	その他	8	1	0	4	0	0	0	1	14
	合計	107	96	7	6	2	1	1	1	221

＜2曲型＞ 84園

実技試験に2曲を課す園は84園認められた〔表3〕。表中のピアノの後に（自）や（課）の表

示がないものは、求人票に何れの指示も記載されていなかったケースを示す。

〔表3〕2017年度幼稚園教諭採用園の音楽実技：2曲型

		埼玉	東京	千葉	神奈川	計
1	ピアノ+弾き歌い（自）	17	3	0	0	20
2	ピアノ+弾き歌い（課）	14	5	1	0	20
3	弾き歌い（自）2曲	7	7	0	3	17
4	弾き歌い+初見	11	11	3	0	25
5	ピアノ（課）+初見	0	0	2	0	2
	合計	49	26	6	3	84

2曲型パターンの内容は、ピアノと弾き歌いのパターン（P1、P2）が40園、弾き歌いと初見のパターン（P4）が25園、ピアノと初見のパターン（P5）が2園、弾き歌い2曲のパターン（P3）が17園であった。この結果、弾き歌いを含むパターンは82園確認され、ピアノを含むパターン（42園）と初見を含むパターン（27園）より優位に立ち、2曲型パターンの97.6%を占めることが判明した。

地域別では、ピアノと弾き歌いのパターンを埼玉では31園が実施し、このパターンの6割に相当する。東京ではこのパターンより、弾き歌いと初見のパターン（11園）の方が多かったが、全ての試験に弾き歌いが含まれていた。弾き歌いに対するウェイトは高いことが鮮明になった。

ピアノ曲の課題曲2曲は「バイエル」のみで、弾き歌いの課題曲は「おべんとう」「おかえりのうた」といった生活の歌や、「とんぼのめがね」

「どんぐりころころ」「たきび」等の季節の歌が出題された。秋の歌が多いのは就職採用試験が秋に多くあるためと推測される。

一方、初見は求人票には内容が明記されておらず、学生の報告書によると「きらきらぼし」「森のくまさん」「どんぐりころころ」「山の音楽家」「子供の世界」「むすんでひらいて」「虫の声」「線路はつづくよどこまでも」「犬のおまわりさん」「とんぼのめがね」、および「生活のうた」といったいわゆる「定番曲」が取り上げられていることから、おそらく視奏唱だと思われる。また園歌を課す幼稚園も3園あった。

＜3曲型＞ 5園

実技試験に3曲を課す園は5園のみで、すべてのパターンに弾き歌いが含まれ、4園では初見が実施された〔表4〕。

〔表4〕2017年度幼稚園教諭採用園の音楽実技：3曲型

		埼玉	東京	計
1	ピアノ（自）+弾き歌い（自）+初見	1	1	2
2	ピアノ（自）+弾き歌い（自）2曲	1	0	1
3	弾き歌い（自）2曲+初見	1	1	2
	合計	3	2	5

(3) まとめ

今回の調査結果から、幼稚園では弾き歌いの力が大変重要であることが判明した。幼稚園教育要

領に「音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器をつかたりなどする楽しさを味わう」¹とあるように幼稚園では歌うことが音楽活動の中

心にあり、日常的にピアノを使用した弾き歌いが行われている。採用試験に実技を実施する園が多いのも、幼稚園教諭にピアノを弾く能力が求められる傾向が高いためと推測できる。

2曲型と3曲型の中で数多く課される初見は、総合的な音楽能力を必要とする。特に視奏唱は、ピアノの基礎的な演奏技術はもちろん、瞬時の読譜力に加え、正しい音高と十分な音量を兼ね備えた歌唱力が要求される。指導者側は学生たちに先ずピアノの初見演奏を経験させ、生活の歌、子どもの歌や季節の歌等のレパートリーを増やすよう促したい。尚、試験の際の予見や練習時間の有無、

また試験の流れについては今後の調査課題とする。

2. 認定こども園

(1) 音楽実技の有無

2017年度認定こども園保育教諭は全国91園より求人があり、内訳は埼玉36園、千葉10園、東京9園、新潟7園、福島・茨城・奈良6園、神奈川・栃木4園、その他3園である。その内、ピアノ実技を含むものは49園あり、採用園の53.3%の園が音楽実技を実施している。地域別では福島83.3%、新潟71.4%、東京66.7%、埼玉63.9%、神奈川25.0%であった〔表5〕。

〔表5〕2017年度認定こども園保育教諭採用園と実技実施園の割合

	埼玉	神奈川	東京	新潟	福島	千葉	茨城	栃木	奈良	その他	計
A採用園(数)	36	4	9	7	6	10	6	4	6	3	91
B実技実施(数)	23	1	6	5	5	5	2	2	0	0	49
B/A(%)	63.9	25.0	66.7	71.4	83.3	50.0	33.3	50.0	0.0	0.0	53.8

(2) 音楽実技の試験曲数による内容分析と傾向 〈1曲型〉 41園

音楽試験を課す49園のうち、1曲型の園は41園あり、その7割にあたる35園は弾き歌いが課された。その内、34園は自由曲で、課題曲の出

された1園は「どんぐりころころ」である。また、「実技または保育実技」の指示は4園あったが、音楽実技が必須ではないと解釈されるため、「一芸」として表記した〔表6〕。

〔表6〕2017年度認定こども園教諭採用園の音楽実技：1曲型

		埼玉	東京	千葉	新潟	福島	茨城	栃木	計
1	弾き歌い(自)	14	5	4	5	4	2	0	34
2	弾き歌い(課)	1	0	0	0	0	0	0	1
3	一芸	4	0	0	0	0	0	0	4
4	その他	0	0	0	0	1	0	1	2
	合計	19	5	4	5	5	2	1	41

〈2曲型〉 8園

2曲型の園は8園あり、全てのパターンに弾き歌いが含まれる。内訳はピアノ曲と弾き歌いのパターン(P1)が2園、弾き歌い2曲のパターン

(P2)が1園、弾き歌いと初見のパターン(P3)が5園である〔表7〕。初見の内容はいずれの場合も不明である。

〔表7〕2017年度認定こども園教諭採用園の音楽実技：2曲型

		埼玉	栃木	千葉	東京	計
1	ピアノ+弾き歌い(自)	1	1	0	0	2
2	弾き歌い(自)+弾き歌い(課)	0	0	1	0	1
3	弾き歌い(自)+初見	4	0	0	1	5
	合計	5	1	1	1	8

(3) まとめ

認定こども園の採用試験における音楽実技の有無は、地域によってばらつきが見られる。試験曲は1曲型が多く、幼稚園教諭と比較するとピアノ実技への比重が低いことが明白である。認定こども園制度がスタートして10年を経過した現在、今後の動向に注目したい。

8園、福岡2園、その他37園である。尚、今回の調査では全国ネットで人材募集を展開する大手グループや、採用地域記載のない企業は除外した。音楽実技を含むものは1200園中189園、15.8%に留まっている。採用園数が一桁の地域を除くと、千葉26.4%、埼玉21.9%、茨城19.2%、東京10.5%、神奈川8.3%という結果となった。〔表8〕

3. 保育所

(1) 音楽実技の有無

2017年度保育士採用は全国1200園より求人があり、内訳は東京501園、埼玉374園、千葉102園、神奈川144園、茨城26園、栃木6園、宮城

この15.8%という数値は、幼稚園79.9%とこども園53.8%と比較すると、明らかに低い。特に東京の10.5%という数値は、同地域の幼稚園91.9%、こども園66.7%と比較すると、その違いは歴然である。

〔表8〕2017年度保育士採用園と音楽実技園の割合

	東京	埼玉	千葉	神奈川	茨城	栃木	宮城	福岡	その他	計
A 採用園(数)	501	374	102	144	26	6	8	2	37	1200
B 実技実施園(数)	53	82	27	12	5	4	4	2	0	189
B/A(%)	10.5	21.9	26.4	8.3	19.2	66.7	50	100	0	15.8

(2) 音楽実技の試験曲数による内容分析と傾向
 <<1曲型>> 178園

実技試験に1曲を課す保育所は、実技実施園189園中178園、94.1%を占める〔表9〕。表中の「一芸」(P1)はほぼ半数に当たる92園で実施

されたが、「ピアノ、楽器、読み聞かせ、手遊びなど、各自得意なもの、自己PRできるもの」という実技内容を表す。一芸披露的な意味合いが強く、音楽実技は必須というわけではない。この一芸に対してピアノ必須の園は86園あった。

〔表9〕2017年度保育士採用園の音楽実技：1曲型

		東京	埼玉	千葉	神奈川	茨城	栃木	宮城	福岡	計
1	一芸	36	29	13	8	0	0	4	2	92
2	ピアノ/弾き歌い(自)	10	30	11	4	2	4	0	0	61
3	弾き歌い(自)	2	8	0	0	2	0	0	0	11
4	ピアノ(自)/弾き歌い(自)	4	1	1	0	0	0	0	0	6
5	ピアノ(課)	1	4	0	0	0	0	0	0	5
6	絵本/作文/弾き歌い(童謡)	0	3	0	0	0	0	0	0	3
	計	53	75	25	12	3	4	4	2	178

一芸の次に多いのが、ピアノ曲か弾き歌い曲かの指定がなく、選曲も自由であるパターン（P2）で61園あった。現場で使えるかを問われるため、弾き歌い曲を選ぶ受験生が多いと想定される。どの地域でも最も多くみられるパターンだが、埼玉が際立っている。P3は童謡や子どものうたを弾き歌いの課題としているが、自由に選曲できるため、実際には自由曲に近く、このパターンも埼玉に多い。P4はピアノによる自由曲、あるいは童謡かわらべうたの弾き歌いが課されるパターンだが、これも自由に選曲できるという意味では自由曲に近い。

一方、弾き歌いを課さないパターン（P5）は5園確認できた。4園は「バイエル100番」と指定があるが、他の1園では「行進曲、自由曲、園

で使うもの」という指示があるため、内容的には自由曲とみなされる。

P6は、絵本読み聞かせ、作文、童謡による弾き歌いの何れかを選択するパターンで、性格的には一芸（P1）に属するとも考えられよう。

以上の結果、音楽実技を必ずしも必要としない「一芸」が全体の5割以上占めること、ピアノ必須の86園では81園が弾き歌いを含むこと、童謡やわらべうた、子どもの歌からの弾き歌いやピアノ曲は自由に選択するパターンが圧倒的であることが判明した。

《2曲型》 9園

実技試験に2曲を課す保育所は9園あり、8園が弾き歌いを含むパターンである〔表10〕。

〔表10〕2017年度保育士採用園の音楽実技：2曲型

		埼玉	茨城	計
1	ピアノ（課）+弾き歌い（自）	1	0	1
2	ピアノ/弾き歌い（自）+歌唱（童謡）	3	0	3
3	ピアノ（自）+弾き歌い（課）	2	1	3
4	ピアノ（自）+弾き歌い（自）	0	1	1
5	ピアノ（自）+初見視奏	0	1	1
	合計	6	3	9

弾き歌いを含むパターンには、バイエル70番から100番までの1曲を当日指定し、さらに子どもの歌から弾き歌いを選曲するパターン（P1）、ピアノか弾き歌いによる自由曲1曲と童謡を歌唱するパターン（P2）、ピアノによる自由曲と「朝のあいさつ」あるいは園指定による弾き歌いを課すパターン（P3）、ピアノと弾き歌いによる自由曲各1曲を課すパターン（P4）に分けられる。一方、P5は弾き歌いを含まず、ピアノによる自由曲と初見視奏が課せられるパターンである。その他、保育士がリズム打ちした後、模奏させる試験が千葉2園で実施された。

2曲型は9園中8園で弾き歌いが実施され、ピアノ、弾き歌い共に自由に選曲できるパターンが多い反面、課題曲は唯一「バイエル教則本」から出題された。

（3）まとめ

保育士採用の実技調査の結果、特筆すべき点は、必ずしも音楽実技を含むわけではない「一芸」が過半数を占めることである。幼稚園ではゼロ、認定こども園では4園という数値を比較しても、顕著な現象と言える。また、音楽実技を課す試験では、1曲型が83園に対し2曲型が9園となり、ピアノへの比重の低さが明確である。

〔表9〕からも明らかのように、ピアノか弾き歌いを自由曲で課すパターンがどの地域でも高いパーセンテージを示している。子どもの前で演奏することを想定して、自分の好きな曲を演奏するよう、園側が求めているケースも見受けられた。演奏技術の巧拙を問うのではなく、自分の良さをアピールし、表現したいことを子どもたちに伝えることができる演奏を求めていると解釈される。

IV. 考察

次に2005年度と2017年度の採用調査を比較してみよう。音楽実技では幼稚園が2005年度84.2%だったのに対し、2017年度は79.9%に、保育所は58.6%から15.8%に軽減した。またピアノ実

技の内容においても、自由曲は幼稚園では47.9%から75.8%に、保育所では68.5%から92.7%に増加した一方で、課題曲は幼稚園では13.2%から5.1%に、保育所では11.1%から9.2%に減少した。また総合的な音楽的能力が求められる初見は、幼稚園では38.9%から9.0%に、保育所では20.4%からわずかに1.1%に激減した〔表11〕。

〔表11〕幼稚園教諭・保育士採用試験における音楽実技比較表

	幼稚園		保育所		こども園 2017年
	2005年	2017年	2005年	2017年	
音楽実技 (%)	84.2	79.9	58.6	15.8	53.8
自由曲 (%)	47.9	75.8	68.5	92.7	53.6
課題曲 (%)	13.2	5.1	11.1	9.2	2.0
初見 (%)	38.9	9.0	20.4	1.0	1.1

この比較からも、採用試験における音楽実技に対する学生の負担は軽減傾向にあることが明らかである。自由曲と課題曲の反比例化、演奏曲数や初見演奏の減少化のみならず、音楽実技試験自体を課さない園も少なくない。保育所の場合、「ピアノ実技なし」「人物重視」「面接のみ」と明記している園も多く見られた。確かにピアノを苦手とする学生たちには歓迎されるだろうが、園側にとっては早急な人材確保を優先するためのやむを得ない措置と考えられよう。しかし、保育現場に立てば、音楽的能力は日常的に必要とされるということを、指導者側は常日頃から学生たちに念を押す必要がある。

調査の結果、音楽実技試験を実施している園では、ピアノ独奏に対して弾き歌いに重きを置いている園が圧倒的に多かった。実際、保育士資格試験でもこどもの歌の弾き歌いが毎年2曲課されている。このことから、保育現場で即戦力となる弾き歌い能力は学生にとって必須といえる。

今回の調査では、公立幼稚園はデータが揃わなかったため、除外した。実際に資料を閲覧できた特別区の幼稚園教諭採用試験では、少なくとも平成23年度以降は「ブルグミュラー25の練習曲」より2曲の課題曲と、オリジナルの歌詞付きのメロディ譜に伴奏を付けて弾き歌いするという難度

の高い試験が課されていることを付言しておく。ピアノ演奏技術に特化してきた養成校は、歌唱力の育成だけでなく、初見力や伴奏付けにも同等の指導を提言したい。

V. 豊かな音楽表現に繋げる授業の進め方

保育者養成校では、その6割が依然として「バイエル教則本」を使用していることが判明した(辻・田中・鹿戸 2017)。もちろん弾き歌いにはピアノの基礎的な技術力は必要だが、バイエルの特性—右手メロディ、左手伴奏型—というスタイルは弾き歌いに大いに活用できる。特に「生活のうた」は、殆どの場合、このパターンを使っている。バイエルを単なるピアノの基礎技術を磨く教則本に終わらせることなく、そこから学生たちに音楽表現を育成する指導案を考察した。

1. 「生活のうた」とバイエルの並行指導

採用試験の際、弾き歌いや初見課題にもよく出題される「生活のうた」5曲を対象曲として、バイエルと並行して実習する指導案を作成した。〈 〉内は対応するバイエルの番号を示す。「生活のうた」は園生活の中で毎日、習慣的に歌われるため、保育者も子どもたちも音楽的な意識を持た

ずに演奏する傾向がある。単に弾いて歌うのではなく、リズムや音量にも注意し、場面に応じた曲想を付けたい。尚、楽譜は簡易伴奏ではなく、可能な限り原曲を用いた。

各曲の全体像を把握する為に、以下の視点から考察した。

- ①テンポ表示、作詞者・作曲者、調性、拍子、音域
- ②曲調
- ③ピアノ伴奏

④和声進行

「おはよう」〔譜例1〕

- ①たのしく (♩ = 100)、増子とし作詞・本多鉄磨作曲、ハ長調、2/4拍子、音域 $c^1 - c^2$
- ②朝の挨拶。楽しい園生活のスタートを切るように明るく元気に歯切れよく歌う。
- ③右手は符点リズム (88)、左手は単音-重音パターン (80)。
- ④ I - V - I、I - IV - I、I - IV - V - I

〔譜例1〕おはよう² (mm.1-5)

「おべんとう」〔譜例2〕

- ①♩ = 120、天野蝶作詞・一宮道子作曲、ハ長調、2/4拍子、音域 $c^1 - c^2$
- ②待ちに待ったお昼ご飯、みんなと一緒に食べる喜びを込めて、明るく生き生きと歌う。
- ③右手は符点リズムと8分音符の組み合わせ (88)。このリズムが苦手な学生は多いので、

1拍目の付点8分音符にアクセントを付けたり、同じリズム・パターンを持つ「かたつむり」を一緒に歌ってヒントを得る。左手は単音-重音パターン (80)。

- ④ I - IV - V (I² V₇) - I、I - IV - I、I - V - I

〔譜例2〕おべんとう³ (mm.1-5)

「おかえりのうた」〔譜例3〕

- ①♩ = 126、天野蝶作詞・一宮道子作曲、ハ長調、4/4拍子、音域 $c^1 - c^2$

- ②帰りの挨拶。園生活の終わりを締めくくるように元気にしっかり歌う。
- ③前奏は両手の三和音 (104) で開始、ペダルを

経験することでピアノへの意欲が高まる。
歌唱に入ると、右手は符点リズム〈88〉、左手は前半三和音〈104〉、後半はアルベルティ・バ

ス〈46〉。

④ I - IV - I、I - V - I

〔譜例3〕 おかえりのうた⁴ (mm.1-4)

1. ぎょーもたのしくすみました
2. おりがみつみきもかたづけ

Ped. ×
C: I I I I IV I

「おかたづけ」〔譜例4〕

- ①テンポ表示なし、作詞・作曲者不詳、へ長調、4/4拍子、音域 $c^1 - c^3$
- ②遊びをやめて使ったおもちゃや道具を片付ける合図になる。次の行動に移れるよう元気に歌う。

- ③へ長調の経験〈85〉。符点リズムによる右手メロディ〈88〉と重音一単音の左手パターン〈89〉。原曲は不明のため、左手は短音や三和音によるパターン等、工夫できる。

④和音進行：I - V - I

〔譜例4〕 おかたづけ⁵ (mm.1-3)

F: V I I I

「歯をみがきましょう」〔譜例5〕

- ① Allegretto、則武昭彦作詞・作曲、ハ長調、4/4拍子、音域 $c^1 - d^2$
- ②コップと歯磨きを持って、ジェスチャーを加えながら歌う。掛け声も入り、楽しく歌うことで歯磨きに興味が持てる。アクセントを意識して、メリハリを付けて歌いたい。
- ③前奏は左手オクターブが難しいので、手の小さい学生にはバス音のみ弾くよう指導。右手は符点リズム〈88〉、左手は単音-重音パターン〈80〉だが、左手はスラーに気を付けて弾く。

ユニゾン〈82〉による掛け声のところは、アクセントを付けて、左右揃えて弾きたい。

④和音進行：I - IV - I、I - V - I、I - IV - V - I

〔譜例5〕 歯をみがきましょう⁶ (mm.1-4)

1. はをみがきましょう しゅ しゅ しゅ
2. はをみがきましょう しゅ しゅ しゅ

C: I I I (VI) V

2. リズム・パターン

対象曲5曲は共通の付点リズム— スキップと言われる付点8分音符と16分音符の組み合わせから構成されている。他の「生活のうた」でも、「さよならのうた」「おはようのうた」（以上、高すすむ作詞・渡辺茂作曲）や「おむねをはりましょ」（作詞・作曲者不詳）は同様のリズムを用いているが、日本ではこの付点リズムを「ピョンコ節」と呼び、校歌や唱歌、軍歌のリズム・パターンとして、明治時代から多用されてきた日本固有のリズムである。スキップと同様、「タッカ、タッカ」とも表記され、躍動感を与える効果を持つ。戦後、西洋の音楽語法中心の音楽教育が実施され

てきたが、幼児教育の現場で依然として愛用されていることは興味深い。

付点リズムはバイエル88番〔譜例6〕に初出するが、付点リズムのパターンと付点リズムと8分音符の組み合わせによるパターンの2つに分けられる。まず、バイエル88番で左手による8分音符に右手の付点リズムが正確に刻めるよう学習した後、「生活のうた」に着手すると効果的である。後者の組み合わせによるリズム・パターンは付点リズムのパターンと混同されがちだが、「おべんとう」で述べた練習法を学生に与え、正しい弾き歌いを目指して欲しい。

〔譜例6〕 バイエル88番⁷ (mm.1-4)

Moderato.
dolce

3. カデンツの意識づけ

5曲はバイエル同様、I、IV、V度の主要三和音による3つのカデンツから構成されている。日頃からカデンツを意識して聴き、実際に和音を弾く学習を習慣化することにより、簡単な伴奏付けや創作に繋げることができる。また、同時にコードネームを覚えると、アレンジやギター奏法等において表現の幅が広がる。

学生たちは三和音を正しく押さえられるようになった後、次のステップとして、メロディに相応

しい伴奏型を工夫する必要がある。バイエル46番でアルベルティ・バスを学習するが〔譜例7〕、様々な伴奏パターンを臨機応変に弾き分ける力を身につけたい。

〔譜例7〕 バイエル 46 番⁸ (mm.1-4)



4. 音楽的な表現へ

「生活のうた」は「ピョンコ節」の軽快なリズムに乗った明るく楽しい曲である。音域も子どもたちにとって歌い易く作曲されているが、その反面、必要以上に大声を上げて、言葉が聞き取れない場面もよく目にする。学生たちは、作詞者や作曲者が曲に込めた思いや、楽譜に書かれたスラーやアクセント等の記号を注意深く読み取ることで、表現力を加えた演奏が可能になるだろう。子どもたちの感性を豊かにするために、音楽的表現力を習得して欲しい。

ピアノの演奏技術の点では、「生活のうた」はバイエル教則本と並行して学習できる。指導者はバイエル教則本に適宜「生活のうた」を織り込み、早い段階から弾き歌いの経験を積ませるよう心掛けたい。

結び

音楽実技というと、即座にピアノ演奏を連想する傾向が強い。しかし、採用試験然り、現場では弾き歌い能力や初見力が要求される。指導者はピアノの演奏技術と並行して、早い段階から弾き歌いへの働きがけに努めたい。同時にできる限り多くの歌唱経験を積ませて欲しい。散歩や園庭で音楽を楽しむ機会は間々あるだろう。楽器がない環境でも、学生たちが正しい音程と豊かな音量を伴う歌唱ができるよう、指導者は配慮しなければならない。

子どもたちの感性を育て、音楽の美しさや楽しさを伝えるには、保育者自らが表現する喜びを実感する必要がある。単位取得や実習のためといっ

た、必要に迫られて練習に終始するのではなく、リズムやハーモニー、歌詞の内容を踏まえた上で、その曲に相応しい演奏を目指して欲しい。

引用文献

1. 文部科学省 2014『幼稚園教育要領』〈原本〉チャイルド本社、p.40
2. 大海由佳、古谷和子、肝付文子 2015『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集第2巻』学研マーケティング、p.18
3. 小林美実編 1975『こどものうた200』チャイルド本社、p.59
4. 同上、p.64
5. 大海由佳、古谷和子、肝付文子 2015『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集第2巻』学研マーケティング、p.22
6. 小林美実編 1975『こどものうた200』チャイルド本社、p.74
7. 全音楽譜出版社編 1955『標準バイエルピアノ教則本』全音楽譜出版社、p.60
8. 同上、p.36

参考文献

- 藍川由美 1998「これでいいのか、にっぽんのうた」文藝春秋
- 東ゆかり・白川佳子 2007「保育者養成校における授業カリキュラムと就職試験の内容との関連性についての一考察」『鎌倉女子大学紀要』第14号
- 辻浩美・鹿戸一範・田中麻衣 2017「ピアノ初学者のための使用テキストの実態と傾向—全国の幼稚園教諭・保育士養成校のシラバスに基

づいて一」『小池学園研究紀要』第15号

特別区人事・厚生事務組合教育委員会「平成23
～29年度特別区立幼稚園教員採用候補者選
考実技試験問題」〈閲覧用〉

辻 浩美 (埼玉東萌短期大学非常勤講師)
田中麻衣 (埼玉東萌短期大学非常勤講師)
鹿戸一範 (秋草学園短期大学専任講師)